

## 会 議 録

会議名	平成30年度 第2回印西市子ども・子育て会議	
開催日時	平成30年9月27日(木) 午後2時00分から午後3時31分まで	
開催場所	印西市役所附属棟2階23・24会議室	
出席委員	西村 信会長、加島 朋子委員、島浦 美智子委員、古賀 一人委員、岩井 基委員、小谷 博子委員、小林 すみ子委員、塩田 幸子委員、塚田 昌幸委員、片岡 一郎委員	計10名
欠席委員	横田 藍委員、杉山 充子委員	計 2名
出席職員等	[事務局] 保育課 田口 光浩、大菅 孝幸、鈴木 正子、菅谷 幸司、小森谷 幸一 [関係課] 子育て支援課 高橋 幸江、海老原 勝人 学務課 坂木 武伸、加藤 知巳、根本 明芳 生涯学習課 飯島 伸一、関口 節子	
傍聴者	3名	
会議次第 議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 会長あいさつ</li> <li>3. 協 議 等               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市内認定こども園・保育園の利用定員について <span style="float: right;">【資料1】</span></li> <li>(2) 保育所等利用調整基準の見直し等について <span style="float: right;">【資料2】</span></li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>4. そ の 他</li> <li>5. 閉 会</li> </ol>	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度 第2回印西市子ども・子育て会議 会議次第</li> <li>・【資料1】 市内認定こども園・保育園の利用定員について</li> <li>・【資料2】 保育所等利用調整基準の見直し等について(案)</li> <li>・【資料1「参考資料」】 位置図①～④</li> <li>・【資料2「参考資料」】 保育所等利用調整基準(現行)について</li> </ul>	

1 開 会

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 協議等

(1) 市内保育園の利用定員について

○事務局より説明

○質疑

【委 員】 保育園が急速に増えているが、その園で働く保育士の確保はできているのか。また、市として、その状況を把握しているのか。

【事務局】 各園、保育士の確保には大変な苦勞をされているようだが、認可が下りているということは当初は確保できていると考える。印西市では、保育士の給与を月3万円助成する制度を行っているが、東葛地区はもっと助成金額が高いため、そちらに流れている可能性は考えられる。

【委 員】 結婚やその他の理由による辞職、産休や育休など、実際、保育士の確保にはとても苦勞している。印西市にも広報など保育士の確保に協力してもらえるととても助かる。

【委 員】 足立区では同区に勤めている保育士の子は学費が免除になる奨学金の制度がある。東京都は、幼稚園より保育園に勤める方が保育士に対する補助が多いので、保育士を確保出来ている。印西市では継続的な保育士の確保が可能なのかとても心配している。

【委 員】 幼保連携型認定こども園へ移行する社会福祉法人鹿鳴福祉会については既に市と関わりがあるが、他の3団体についてはどのような法人なのか。

【事務局】 すくすくどろんこの会については、市内で小倉すくすく保育園を運営しており、2園目となる。市外では野田市に2園と埼玉県にも園を運営している。調和の森と結の陽会については、新たに法人格を取得して、園を始めようという法人である。

【委 員】 法人取得の窓口は保育課で行っているのか。

【事務局】 もともとは県で行っていたが、現在は法人の認可は保育課で行っている。

【委 員】 印西市で法人を認可するようになって、これで何園めか。

【事務局】 平成25年度からなので、保育園だけで5園ある。

【委員】 調和の森、結の陽会はどのような人物が主体となっているのか。  
【事務局】 調和の森は元学校の先生、結の陽会は松戸市で福祉部長を務めていた方が理事長となっている。

【委員】 調和の森の理事長は、保育園の経験はないのか。  
【事務局】 直接はないと思われる。

【委員】 現在、建設中のマンションや戸建て住宅もまだたくさんあることから、来年度以降も子育て世代の印西市への転入が予想されるが、この新たな3園が開設されることにより、来年度の待機児童数は改善される見込みか。

【事務局】 今年度4月の待機児童数は133名、そのうち100名強が1歳児である。0歳児は3人に対して1人の保育士を必要とするため、定員を増やすほど保育士の確保が必要となる。来年度、この4園で待機児童全ての解消は難しい。市としては、これからも今後を見据えて、施設整備を考えていきたい。

・協議結果 一同了承

## (2) 保育所等利用調整基準の見直し等について

○事務局より説明

○質疑

【委員】 育児休業を終えて職場復帰をする場合の調整指数について、育児休業の延長等があるが、例えば保育園に入れず、職場の託児所等を使って復帰をした場合でも希望する園に入れるまでは点数がつくのか。

【事務局】 育児休業の延長等とは産後休暇及び育児休業の延長のことで、職場復帰をしてしまうと加点はされない。

【委員】 その理由はなぜか。

【事務局】 託児所を利用することで、保育園に入らずとも職場復帰が出来ているという点で加点対象にはならない。

【委員】 確かに託児所を利用すれば職場復帰はできるが、託児所と保育園は利用する用途や目的が違うので、復帰できているという理由だけで加点がされないというのは納得が出来ない。

【事務局】 様々な意見があるが、市としては、育児休業を延長することができない人が、育児休業の終了月に保育園に入れず、退職するしかないという状況に陥ることがないように加点をしており、職場復帰が出来ている場合には加点の対象にはしていない。

- 【委員】 利用調整基準は市で決めることが可能だと思うが、市独自で特に配慮している点について教えて欲しい。
- 【事務局】 国の基本的な優先的利用の考え方を元に、近隣市町村の傾向を研究しつつ、各市町村の実情を考慮しながら、最終的な加点配分や加点項目については各市町村で決めることが出来る。特に印西市だけが加点しているというものはないが、様々な意見がある中で、市として、実情に合わせた点数の見直しを行っている。
- 【委員】 先ほどの保育士確保の話にも繋がるが、東京都では保育士が自分の子どもを保育園に預ける場合、自分が働いている園に優先的に入れたりする。印西市でも保育士の職場復帰を支えるような方法を検討して欲しい。
- 【委員】 印西市は都内に通勤している人も多く、通勤時間が長い親も多いが、それが保育園の入園に考慮されていないことがとても気になる。親の通勤時間が長いということは送迎が朝早く、夜遅くなるということになり、子どもの生活が乱れる原因となるので、優先的に第一希望の保育園に入園させるべきでは。また、兄弟姉妹2人以上の加点が低くなるということで、2か所以上の園に通わせるとなると、印西市は1園1園の距離が離れているので、毎日の送迎が本当に大変になると思われる。母の多忙が子へのイライラに変わり、虐待に発展する場合もあるのではないかと心配している。平等性の大切さはわかるが、もう少し実際に生活している親の目線を考慮してもよいのではないかと。
- 【委員】 この加点は「+3」から「+1」に見直しということだが、それでは差がつかないので、「+2」にするなど何か方法を考えてはどうか。
- 【委員】 そもそも待機児童の問題は子育てをしている市民に負担を強いる問題ではない。保育施設をもっと確保し、兄弟姉妹がたくさんいる家庭を守ってほしい。
- 【委員】 印西市の保育所等利用調整基準の指数は他市町村と比べると曖昧だと感じる。もう少しこの指数を細かく定めることで、実際の勤務時間や勤務体制に考慮した結果になるのではないかと、常々思っている。
- 【事務局】 市では待機児童の解消に努めているが、現在、兄弟がいない子の入園がなかなかできない現状である。そこを考慮しつつ、やはり兄弟姉妹が同時に入園することは厳しいということで、1点の加点をつけたところである。また調整指数の11「兄弟姉妹が既に保育所等を利用しており、同一の保育所等の利用を希望している場合」の加点+3は今まで通りにして、なるべく同じ園に入れるように配慮しており、もし別々の園になってしまっても転園希望の際に同じ園に優先的に入れるよう考慮している。
- 【委員】 それは、最初は別の園になるということか。転園希望を出してもそんなにうまく空きが出るものなのか。
- 【事務局】 もちろん同じ園に入園できることがベストではあるが、現状の兄弟がいない子の入園状況とのバランスを考えてこのような加点にしている。必ずすぐに同じ園になれるとはいえないが、転園の希望は多く出ているので、その中で優先的に同じ園に通え

るよう配慮している。

【委員】 この兄弟姉妹が2人以上で同時に利用申し込みをしている場合の指数は、近隣市町村と比べて高いのか、低いのか。また、③の利用の内定を辞退した場合の減点について、この扱いは近隣ではどうなっているのか。今までは辞退したことにより別の子が入園出来ていたことを考えると、この減点により、安易に入園する人が増えるという可能性も考えられるのではないかと。

【事務局】 この見直しに際して、近隣市町村の動向について調査をしているが、この兄弟姉妹が2人以上で同時に利用申し込みをしている場合の指数については、もっと加点があるところもあればないところもあり、市町村によって様々である。傾向としては、兄弟姉妹が既に在園している場合と、兄弟姉妹が2人以上で同時に利用申し込みをしている場合は差をつけている市町村が多い。それらを踏まえて、市の実情に合わせて考えた形を今回提案している。

辞退による減点については、印西市がなかなか保育園に入園できないことから、加点を目的に入園申し込みをし、実際、入園が決まっても辞退するというパターンが増えている。辞退するタイミングもあるが、保育園側は入園が決まった時点でその子を受け入れるために様々な準備をし、態勢を整えるが、結局、辞退というケースが続いたため、市としては今回減点を考えている。

【委員】 辞退による減点については、抑止力になって非常に良いと思う。兄弟姉妹が2人以上で同時に利用申し込みをしている場合の加点については、市町村によって考え方があるということなので、印西市としては現状維持もしくはもっと加点しても良いのではないかと。

【委員】 先ほど話した通勤時間の加点について、今後、その予定はないか。

【事務局】 市民からも同様の問い合わせを頂いているので、今後、検討していきたい。

【委員】 これだけたくさんの意見があると、このことについて、一括で賛否を問うのは難しいと思われる。項目別でとってはいかがか。

【事務局】 それはひとつでも否の項目があれば、全体として認められないということか。

【委員】 最終的には多数の方に決まるのだろうが、項目別に決を取ることで、反対が多い項目については、意見を反映させてほしい。

【委員】 そもそも意見を聞くことが必要であって、この会として議決を取る必要があるのか。  
【事務局】 印西市子ども・子育て会議設置条例第6条、3に「会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。」とあるので、皆さんの決を取る必要がある。

・協議結果

了承

可 5名

否 1名

(3) その他

- 【委 員】 来年の10月から幼児教育の無償化の話が出ていて、国の方からの上限が認可保育所は3～5歳無償、0～2歳42,000円、幼稚園25,700円ということまででているが、市としては今後どのような考え方で対応するつもりか。
- 【事務局】 まだ国の方から正式な通知が来ていないので、金額については申し上げられないが、来年10月に間に合うように市の方も準備をして、周知できる段階になれば速やかに市民に周知していきたい。
- 【委 員】 自分も研修会等に出ているが、なかなか解釈が難しい部分がある。市としても今の段階で細かいことはいえないのではないか。
- 【事務局】 正式な通知をもって動きたいと思っているので、ご理解いただきたい。
- 【委 員】 しばらくはいろいろな変化があると思うが、良い方に変わっていているので、市と協力しながら進めていきたいと思っている。
- 【事務局】 予算の関係もあり、どの自治体も早く情報が欲しいと思っているが、なかなか情報が入ってこないというのが現状である。
- 【委 員】 8、9月は保育園の監査が行われているが、担当はこちらで良いのか。
- 【事務局】 県が書類及び施設を巡回して監査を行っている。
- 【委 員】 市で行っていないのか。
- 【事務局】 監査は県で行っている。
- 【委 員】 数年前から監査の業務を市町村に移管するという方針が来ていたので、市の方にも当然何かしら情報がきているものだと思ったが。仕事も監査すべき施設も増加しているので、専門的なスキルを持った職員を増やして、対応できるような体制を作っておくべきだと思う。
- 【事務局】 市でも昨年から3年に1度という形で指導監査を実施している。今年度は保育園に関しては2園を予定しており、日程は未定である。
- 【委 員】 幼稚園や無認可保育園の監査はこちらで把握していないのか。
- 【事務局】 県の方の指導監査には市の職員も園の状況を確認するためにもできる限り同行し、立ち会うようにしている。
- 【委 員】 来年度は無認可の保育園も無償化の対象になると思うが、現在、印西市にはどの程度、無認可保育園があるのか。
- 【事務局】 認可外保育施設については、国からは月額保育料の全国平均額を採用して3～5歳は37,000円、0～2歳は42,000円の上限額が示されているが、先ほど課長が申し上げたようにまだ確定はしていない。印西市内には2園、企業主導型保育事業が運営されており、30年度中に、新たに1園開園を予定している。現在、運営している2園では4月現在、0～2歳児が3名所属している。
- 【委 員】 印西総合病院内にある保育園を届け出はしていないのか。

【事務局】 あちらは託児所で、特に認可外保育施設の届け出はしていないと思う。

【委員】 民間保育園連盟から、現在は待機児童解消のため、保育園の設置を行っているが、この先の少子化に向けて、新たな法人に認可をおろして園を作るより、既存の法人が園を設置し、対象が少なくなった際は法人内で整理をする。また、小規模保育を整備して、3歳以上については民間の保育園や幼稚園と連携を取りながら進めていくというような話があったが、印西市としては今後の保育園設置の方向性についてどう考えているのか。

【事務局】 今年度、印西市子ども・子育て支援事業計画のアンケートを取り、その結果に基づき、保育園の整備を進めていくが、来年度には先ほどご説明した3園、32年度にも何園か開園予定の園がある。市としてはまだ人口が増える見込みであるため、今後も設置予定である。

#### 4 その他

##### ○事務局より連絡事項等

- ・利用者支援事業における相談内容について
- ・第2期子ども・子育て支援事業計画策定業務の進捗状況について
- ・今後の会議開催スケジュールについて
- ・委員報酬について

#### 5 閉会

平成30年度第2回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成30年11月26日

子ども・子育て会議委員

岩井 基

子ども・子育て会議委員

西村 信

